様式２

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：文学と芸術
部会長名：定延利之
作成者名：定延利之

概要（2000 字）

「文学と芸術」部会は、人文学研究科、国際文化学研究科、人間発達環境学研究科の教員から構成されている。授業科目の内訳は、「伝統芸術」「言語と文化」「世界の文学」である。前期と後期でコマ数が著しく違うということもなく、学生の要求に配慮した配置といえよう。しかしながら、「言語と文化」のコマ数が多く「世界の文学」のコマ数が少ない点については、今後何らかの対策を考えることが必要かもしれない。

人文学のうち文学や芸術に関する学問は、多感な青年期の学生にとって感性を磨き人格を形成する上で非常に有益な学問である。音楽に聴き入り、文字文化やファッションに大いに興味を示す学生達に、そういった文化現象を客観的に捉えさせる視点を与え検討させることは、人生をより豊かにする上でも大切なことである。特にそれは、世界にある数千の言語の９割が絶滅の危機に瀕すると言われる今世紀において、重要なことであろう。

しかしながら、文学や芸術といった分野をこえて人文学といった学問に対する学生の興味は、どんどん低下しているように見える。部会員の中からも人文学への興味の低下が危機意識をもって語られるが、その打開の手段としては教養教育体制の抜本的な改革が必要なのかもしれない。抜本的な体制の改革は、多くの時間と労力が必要とされるのであって、部会員は現在の体制の中でできることとして、学生達に文学や芸術に対する興味とそれに対する批判的な視点を得させるために、様々な努力をしてはいる。文学や芸術は、作品と直接対峙することが望ましいが、平日の授業時間中に美術館や劇場などに足を運ばせることはほぼ不可能なので、視聴覚機器を使って疑似体験をさせるようにしているという工夫は、その例である。しかしながら、その視聴覚教材の作成は各教員に任されており時間的な負担だけでなく、金銭的な負担も大きい。時間的な負担を軽減するためにＴＡ制度があり活用している教員も多いが、予算の制約があり、なお教員がかなりの負担をせざるを得ないのが実情である。学外見学を実施すると、学生に交通費等の負担が生じるし、その間に事故が生じた場合の責任などの問題もある。一方、直接作品と対峙して得られる成果も大きい。この間の折り合いをどう付けるかといった検討も必要になるのかもしれない。それはともかく、近年かなりの大学が、美術館や博物館とメンバーシップ協定を結んでいるが、本学においても協定を結び、学生が金銭的な負担が無く自由に文化施設を見学できる制度を取り入れることも考えられてもよいのではないか。

さて、シラバスには各教員の間でかなりの精粗があるが、おおよそ授業内容が学生にも十分理解できるように記述されている。また、授業内容についても、教員の研究成果を活かすように工夫されていると判断できる。教員の研究成果を反映しているかどうかを問う項目での自己評価は高い。自己評価については今回は多くの回答は寄せられなかったが、単位の実質化が意味するものは何なのかがはっきりしないこと、人文学においては、到達度の設定が難しく評価も難しいことを差し引いても、自己評価が低い項目が上記の教育体制と密接に関係するものにかぎられていた点は着目してよいのではないか。学習指導法の工夫については、情報機器の利用やＴＡの利用が積極的になされてはいるが、多くの授業では、約２００名という大人数の学生が履修する場合、対話や討論を取り入れるのはかなり難しい。最大履修数を１５０名に、さらには１００名に限定することで授業の進め方にも工夫ができるようになるかもしれない。成績評価・単位認定

の項目での自己評価は高いが、授業中の学生の反応により評価の方法を変えることも認められるべきであろう。その場合学生に十分な説明をすることは必要ではあるが、教育の成果の項目での自己評価もかなり高い。根拠は学生評価などの客観的な資料によっている。

様式２（続き）

項目・観点ごとの記述

基準５　教育内容及び方法

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）　配慮している。

根拠資料　シラバス、教科書、配付資料、スライドなど教材　教員アンケート

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

（観点に係る状況）　概ねそのとおりである。

根拠資料　シラバス、教科書、配付資料、スライドなど教材。（「概ね」というのは、教授内容によっては、教育設備の問題から、理想的な実現がかなわなかったということである。）教員アンケート

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）　配慮されている。

根拠資料　テキスト、配付資料、コメントシート、レポート　教員アンケート

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

（観点に係る状況）　作成され、活用されている。

根拠資料　シラバスと授業記録　教員アンケート

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。
（観点に係る状況）行っていない。本部会においては基礎学力を考慮することはない。基本的な知識の不足はあるが、高等学校のカリキュラムに関する問題でもあり、この問題をどう解決するかは部会を超えた課題である。

根拠資料　シラバス

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。
（観点に係る状況）　されている。

根拠資料　シラバス、配付資料、教員アンケート、試験問題

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。
（観点に係る状況）　講じられている。

根拠資料　シラバス、配付資料、教員アンケート

<u>基準６　学習成果</u>
６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②：　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。
（観点に係る状況）　上がっている。

根拠資料　コミュニケーションペーパー、メール記録、イベント記録、教員アンケートや学生アンケート

基準７　施設・設備及び学生支援

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。
（観点に係る状況）　環境が十分に整備されているとはいえない。

根拠資料　教員アンケート

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習，課外活動，生活や就職，経済面での援助等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目，専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。
（観点に係る状況）　概ね適切に実施されている。

根拠資料　教員アンケート（「概ね」というのは、授業によっては初回授業の段階で受講者は全員、登録を済ませており選択の余地はないからである。）

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。
（観点に係る状況）質問には誠実に答えており、十分理由のある要求には応えている。

根拠資料　シラバスおよび教員アンケート